



♪アンダンテ♪

君と僕 互いの力生かし合う
共同参画パートナー

登別市男女共同参画情報誌

No.12

～性別や年齢の違いを超えて、男女が平等に
そして、自分らしく生きていくために～

平成27年度男女共同参画週間事業 男女共同参画社会に向けた作品（標語）

登別市では、男女共同参画社会について家庭や学校、職場、地域で考えるきっかけとしてもらうため、
標語や習字、ポスターなどで男女共同参画社会のイメージを自由に表現した作品を募集しました。
市内の小・中・高校生から標語 274 点、習字 1,061 点、ポスター17 点が寄せられました。

その中から、**標語の最優秀賞作品**を紹介します。



習字一部入賞作品

最優秀賞

ささえ合い
男女共同な
町作り

幌別西小学校 4年
伊藤 真



標語入賞作品

最優秀賞

にっぽんに
びょうどうの花
さかせよう

若草小学校 5年
宮本 彩希



ポスター入賞作品

最優秀賞

切り開こう
男女共同
すてきな未来

若草小学校 6年
雪平 蓮

(敬称略)

♪「アンダンテ」のネーミングについて♪

音楽記号の一つにある「アンダンテ」は、「歩くくらいの速さで、ゆっくり演奏」という意味です。
男女共同参画の理解や取り組みが「じっくりと自分のペースで進むように」という期待を込め、名付けました。

登別市市制施行45周年記念事業

男女共同参画フォーラム2015

日時：平成27年11月15日（日）13時00分～

会場：登別市民会館

テーマ：「介護から見えるジェンダー」

地域包括支援センターあおい

センター長 鎌田 沙緒里 氏

「介護から見えるジェンダー」と題し、地域高齢者の方々の健康・生活・介護などに関する相談・支援事業を行う「地域包括支援センターあおい」のセンター長鎌田沙緒里氏をお招きして、かつてない高齢化を迎え、高齢者介護や認知症介護の実態と現場を通して見える性差の観点から考えられる事などについてご講演をいただきました。

参加者からは、とても身近でタイムリーなテーマでの内容で、参加して良かったとの感想を沢山の方からいただき、フォーラム参加者の内アンケートにご回答をいただいた60名中「男女共同参画」という言葉を知っているの方が49名81.7%のアンケート結果を得る事ができました。

今後とも登別市民の皆様にご密着した事業展開に努めて行きたいと考えております。



平成27年度 男女共同参画社会に向けた作品表彰式

毎年6月23日から29日までの男女共同参画週間に合わせて、習字・標語・ポスターなどで男女共同参画社会のイメージを自由に表現した作品展を開催しています。今年度の応募は総数1,352点過去最高の応募数となり、その中から入賞作品計44点を選考しました。

表彰式は、登別市市制施行45周年記念事業男女共同参画フォーラム開催日の午前中、市民会館中ホールを会場に執り行われ、松橋副市長より受賞者一人ひとりに、表彰状が手渡されました。式終了後には、登別市男女共同参画社会づくり推進会議の委員によるクイズが行われ、「男女共同参画とは」男子、女子の性差にとらわれることなく「自分らしさが大切である」との理解を促す初の試みで進められました。来場者へ男女共同参画の推進に、より一層の関心を持ってくださればとの思いを伝えられる企画となりました。



《推進委員によるクイズ》



《受賞者との写真撮影》

働きやすい社会を目指す「女性の活躍推進法」が制定されました！

社会で活躍する女性をもっと増やすため、「女性の活躍推進法」という法律ができ301人以上の人が働く会社や国、都道府県、市町村は、部長や課長など責任のある仕事をする女性の数をどれだけ増やすかといった目標の数字を掲げて、取り組むことになりました。

具体的には、仕事をする時間や働いた年数の男女の違い、会社に入った女性の数、部長や課長になった女性の数などを調べなければなりません。その上で、女性の活躍のために会社のどこを変えればよいかを考えて、数字を入れた目標や、取り組む計画（行動計画）を作って公表します。

日本は、会社などで責任のある仕事を任せられる女性が、アメリカやスウェーデンなどの外国と比べても少なく、第一子を出産するときに10人中およそ6人が仕事を辞めるそうです。

女性が働きながら子どもを育てるためには、子どもを預ける保育所を増やしたり、男性も積極的に子育てに参加できる仕組みづくりや、社会全体が変わっていく必要があるのです。

そのために、登別市男女共同参画社会づくり推進会議の私たちも、より一層の市民の皆様へ様々な働きかけに努めてまいりたいと考えております。

「女性活躍推進法」の制定を受け、登別のリケジョ訪問！



北海道曹達(株)幌別工場企画・管理本部研究開発部勤務の北澤由梨亜さんの職場へ1月14日にお邪魔いたしました。

北海道曹達(株)は、苫小牧市に本社を置く基礎化学品メーカーで、塩素や水酸化ナトリウム（苛性ソーダ）、それらを原料とした上下水道の処理剤や融雪剤の製造販売会社で研究開発に携わっており、苫小牧高専卒業後、室蘭工業大学で通算7年間、「化学」を学ばれました。北澤さんは、大学で学んだことを生かせる職場を希望され、現在の研究室にお勤めされたとの事で、4年目を迎えられるそうです。

作業着姿で研究に打ち込む姿に凛々しさを感じ、また、終始27歳の年齢を感じさせない落ち着きは、仕事での自信や経験の幅を感じました。

女性が働く職場環境について、話が及んだ時には、現在の会社は、出産を終えた多くの先輩が職場復帰をされており、三人の子育てをしながら働き続けられている先輩もおり、このことから「男女平等の観点に立った職場環境に恵まれている」と話されていました。

北澤さん自分自身も、将来、子育てしながら勤め続ける事を希望されておりました。今後、益々のご活躍にエールを送ります。



（リケジョとは：理系の女子学生や女性研究者など理系女子の略語。少子化の中で理系進学の特典を女子生徒に用いたり、産業界からも「リケジョ」を求める声が高めっていると報道されている）

平成27年度市内女性団体事業紹介

<のほいべつ男女平等参画懇話会> 男女共同参画フォーラム

自分らしい葬送のあり方考える機会として、札幌のNPO法人「葬送を考える市民の会」の皆さんをお招きして、昨年8月20日（木）に開催しました。

第1部では、代表者である澤 知里さんから「送る人、送られる人の思いを大切に」「亡くなった方を敬意をもって送り、生きる者がけじめをつけ死を受け入れる」ことが、葬送を考える基本であること、そのためにもエンディングノート的重要性をお話しされました。

第2部では手づくりの祭壇・写真・骨壺などの展示品を見学し、また、衣装としてお気に入りの着物や洋服のリメイクの方法も解説してくださり、「自分が生前気に入っていた物」を活用することや「不必要な習慣や迷信に拘らない」ことの重要性を学びました。

<フラタナス・フォーラム>

当会は、女性リーダー研修会（以前の研修名は三市女性国内派遣研修）に登別市から参加した有志が平成17年4月に設立しました。

現在の会員14名で、男女共同参画社会づくりや、地域のボランティア活動等をテーマに月に一度例会での勉強会や、フォーラム、講演会を企画・開催しています。

今年度は、昨年11月28日（土）に地域で活躍をされている方をお招きして、フォーラムを実施いたしました。

落語、江戸芸かっぽれを演じていただき、出演者全員から「男女共同参画について」感じている事や芸事を続けていくうえで家族の理解や関わりについて話し合いました。

<登別市町内会女性役員研修会>

市連合町内会は、平成27年度事業として町内会女性役員等を対象に『まちづくり市内視察研修会』を昨年10月20日（火）に実施しました。

本年度は座学研修から市内に出て「我がまちを再発見」と題して、100名の女性役員が参加され施設等を回り、登別の魅力を再確認しました。

郷土資料館やネイチャーセンターふおれすと鉱山、大湯沼側の足湯、地獄谷など紅葉の秋の中、見学体験し、地域への愛着心を育成し、女性の視点でのまちづくりに役立ててもらえればとの思いで初めて開催しました。

女性プラザ祭2015へ参加して

平成27年11月12日(木)札幌市にあります北海道立女性プラザで開催されました「女性プラザ祭2015」へ市内の女性団体の方々と一緒に参加して参りました。講演は、お二方の専業主婦が「夢をカタチに・夢を紡いで」とカフェや農園を立ち上げ、成功に至るまでの経緯、周りの方との繋がり、地域との関わりのお話をされていました。

講演は、女性ならではの発想力やコミュニケーション能力を発揮し、周りの人が求めている事に寄り添い仕事を創ってきた自信が飾りのない言葉から感じられ刺激を受けて帰路に就きました。

参加した皆さんからのアンケート結果でも、参加できて良かった、パワーをもらってとても充実した一日となりました等のご意見をいただき、今後においても、一人でも多くの方と一緒に参加したいと思っております。

のぼりべつ女性防災ネットワーク会議が発足！！

「女性の視点で地域防災力を高める」ための今後の活躍に期待が高まります。

女性の視点を生かすことを目的にした組織「のぼりべつ女性防災ネットワーク会議」通称「のぼりべつネット」が平成27年6月5日に発足し、保健師や警察官、自衛隊の女性たちが連携し、女性に配慮した避難所の在り方などについて模索し、今後、市の防災会議に提言することを計画しています。

女性の視点で防災を考えることの大切さを共有し、「要配慮者」となる方への配慮や、女性が災害時に直面する課題について考え、地域防災力を高める事が狙い。会長には、登別市消防団女性分団長の山本富美子さんが選ばれ、「女性のマンパワーで防災力を高めたい」との思いと協力を呼び掛けました。



平成27年度男女共同参画
キャッチフレーズ

<女性関連図書書架>



登別市図書館アーニス分館に

「男女共同参画関連図書コーナー」
が新設されています！！

女性関連書籍を選定し集約されて
おりますので、是非ともお買い物
の際にお立ち寄りください。

★ おすすめ書籍はこちら⇒

好きなこと、やりたいこと、自分
の仕事の参考となる本も多数取り
揃えられています。



相談先

配偶者や交際相手といると怖いと感じたり緊張したりしていませんか？
DV相談も受け付けていますので、一人で悩まず相談してください。
また、子どもの目の前で暴力は、心理的児童虐待にあたります。

☎ 85-2139 お気軽にご相談ください！！



編集後記

●少子高齢化の流れに歯止めをかけ、誰もが活躍できる一億総活躍社会を目指し、法の整備が進み喜ばしいのではあすが、それ以前に根本的な改革が必要ではないかと感じております。私たち一人ひとりが継続して啓発事業等で発信し続ける事が大切であると考えています。(T. N)

●今の時代、男性は仕事、女性は家事・育児という固定的な役割分担はなくなり、男性は家事や育児の参加、女性は外での活躍が増えてきました。私たちの発信するアンダンテが、一人でも多くの方に読んでいただきたいと願っています。(M. K)

問い合わせ先

登別市市民生活部市民サービスグループ 〒059-8701 登別市中央町6丁目11番地
TEL: 0143(85)2139 FAX: 0143(85)7674 E-mail: simin_danjyo@city.noboribetsu.lg.jp
登別市男女共同参画情報誌「アンダンテ」第12号 発行日:平成28年3月
企画・編集:登別市男女共同参画社会づくり推進会議
アンダンテ企画・編集委員(千葉(早)、田淵、渡部、南部、田崎、佐藤、石井、片桐)
登別市ホームページ <http://www.city.noboribetsu.lg.jp>